

一茶ゆかりの里 四季の俳句会（平成二七年度四～六月分）

選者 志やくなげ俳句会 荒井智雄先生

特選 天花こぶし甕に溢るる老舗宿 高山村 高野悠子

老舗宿と甕の古さに対し、明るく咲き誇る花こぶしの対比に「雅」がでている。

特選 地髪束ねペダル漕ぐ娘に聖五月 愛知県 平野辰美

娘の澁刺とした様子が聖五月とマッチしている。

特選 人決められず手いっぱいの種袋 群馬県 滝沢照香

今年は色々な野菜や花をいっぱい育てようと種を沢山買つたが、播種時になつて、迷う様子が表現されている。

入選 落の薹摘む喜びもお裾分け 群馬県 竹渕千恵子

入選 立春や朝の掃除機豆を吸ふ 栃木県 五十畠文男

入選 葉桜の影の重なる一茶像 神奈川県 田中京子

入選 信濃路や植田に軽き風渡る 群馬県 竹渕てる子

入選 同級会苦勞話も花の庭 東京都 大久保友花

入選 濡れ枝に花も滴るハナミズキ 長野市 塩入紀栄子

入選 孫と來し 一茶会館五月晴れ